

## デジタル産業 小さな巨人

量の約4割のスリット加工を請け負う隠れた巨人。金属材料の在庫は一切抱えず、受託加工に特化した「金属加工の板前」として成長を続けている。

本社併設の加平工場の一  
角。厚さ35ミリの銅板を200  
万分の1の銅板を2ミ

金属はくを糸ほどの細さに切り分ける「スリット加工」。携帯電話や自動車の電装部品などに使われる極細の導線などを作るために不可欠な技術だ。仲代金属（東京・足立）は車のエアバッグ用の導線で世界生産

## 金属はく、髪の毛より細く加工

### 仲代金属



薄い銅板を糸状に加工する（東京都足立区  
の仲代金属）

## 極細部品、「板前」が支える

「分巻き付けた「ボビン」が加工機の内部で勢いよく回転し、車のエアバッグに使用される幅0・8ミリの導線が切り出されていく。」  
「日常的には幅0・1ミリのままでの加工を請け負っているが、要望があれば髪の毛の太さの3分の1の幅20ミリの銅板まで対応できる」。安中茂社長は胸を張る。

「調整を重ねていく。ガラスのように砕けやすいアモルファス合金も加工できる技術力がデジタル関連メーカーから高く評価を連年受ける。例えばエアバッグの導線ではトヨタ自動車など大手と取引があるほか、携帯電話本体とリチウムイオン電池を結ぶ部品では同社が国内生産分の約6割を

#### 《会社概要》

- ▽設立 1974年
- ▽本社 東京都足立区加平2の9の2
- ▽事業内容 電子機器向け金属スリット加工
- ▽従業員数 60人
- ▽売上高 7億円  
(2008年7月期)

加工しているという。

国内拠点は加平工場のほか、超精密加工の東和工場（東京・足立）とアモルファス合金を扱う新潟工場（新潟県阿賀野市）の3カ所。材料の在庫を抱えず、メーカーから供給された材料を加工して稼ぐ。「板前」を自称するゆえんだ。

世界的な景気後退の影響で昨年末から今年1月ごろは稼働率が3割近くに落ち込んだが、中国を中心に需要が回復して稼働率は6割近くまで戻ったという。

今後成長が見込まれる中国市場での需要をさらに取り込もうと、今年1月には初の海外拠点の上海工場（上海市）を設立した。国内と同様、営業要員は配置していないが、中国企業や日米欧のメーカーが口コミ

で同社に加工を依頼。5月末から新工場を稼働させ、1カ月で800社の案件に対応したという。

また同社は新たに、携帯電話やノートパソコンに使用しているリチウムイオン電池の2007年に発火事故が多発。同社は電池メーカーからの依頼を受け、性能試験用のニッケル小片を納入してきた。電池の安全性試験が年内にも義務化されるため、安定供給できる体制を整える。

「ここでもうけるつもりはない。安心安全に貢献できれば、それでいい」（安中茂社長）。プロフェッショナルの静かな自信のぞい

（川俊成）